

まちを、あかるく

①はじめに

まちが、あかるくなるためにはどうすればよいのでしょうか。

明るい状態、これは結果として生まれるものであり、究極的なゴールです。

より良い未来を求めていった先の、理想的な状態、幸福を示す言葉なのです。

では、まちとそこに住み暮らす人が明るくなるためにはどうすれば良いのでしょうか。

2021年、1年遅れで開催された東京オリンピックは、多くの感動を私たちに届けると同時に、多くの課題を私たちに突き付けました。それは関係者の過去の発言や行動、硬直した組織運営や旧時代的な価値観への批判など様々な形をとって顕在化しましたが、それらに対する世間の反応が示すもの、すなわち私たちを覆う閉塞感の根底にあるのは昨今勢いを増す不寛容さと不信感であり、それは否応なく進む世界の多様化を活かせぬまま、この社会の対立と分断を深めているように思えてなりません。一つの失言や不適切な行いを見逃すことなく、司法ではなく社会が制裁を課す世界。私たちは国家権力ではなく互いが互いを監視し傷つけあう時代へと突入しているのです。これは私たちの志向する“明るい豊かな社会”から著しく遠ざかる危機的状況であると私は考えます。

では世界に寛容さを取り戻すために私たちはどうすれば良いのか。

それは『全ての人が水を得た魚になれる場をデザインすること』ではないでしょうか。

ルールが人を生かすのではなく、人がルールを活かすのです。

個人が持つマイノリティ性にアイデアと活路を見出すこと、常識に捉われず皆が本当に参画出来る仕組みを構築することから、組織、地域、社会の新たな活力は生まれてくるはず。明るい豊かな社会とは何か、皆でその姿を明らかにしてまいりましょう。

②社会起業家としての Jaycee

綱領にある“明るい豊かな社会の実現”、ここで目指す社会の在り方を考えるのはその時代の青年会議所メンバーです。まずは視野を広げ、大きな世界の流れを直視することが必要でしょう。例えば生きるための経済的自由と豊かさから、より本質的な権利的自由と文化的豊かさ、すなわち多様性の獲得へと市民運動の争点が推移した社会。例えば重工業・ものづくりから IT や AI を駆使した生活のプラットフォームを握る産業に富が推移した経済。例えば資本主義経済と有限のリソースのアンバランスを俯瞰し、富から幸福の追求へ価値の軸足を移し持続可能な営みのバランスを模索し始めた世界。その中で私たちが舵を切るべき最善のシナリオを常に考え続け、まちとはすなわち私たち一人ひとりのものであるという当事者意識を持ち行動していくことが私たち青年経済人の責務ではないでしょうか。

私たちがつくる運動は、社会を自動的に良くし続ける装置であるべきです。ルール、慣習、ヒト、モノ、カネ等が集まって自走出来る仕組みでなければ、持続可能な地域づくりは達成し得ないからです。そして持続可能にするためにはビジネスとして成立していることが一番です。青年経済人である Jaycee が、卒業した後も社会課題を解決し続けることを目指した社会起業家としての価値観や見識を持ち、また広く市民にその考え方を浸透させることは、同時にこの地域に新たな事業のチャンスを創出すること、私たちの運動をより本質的なものに進化させることにも繋がります。まずは持続可能な社会運動とはどのようなものか先行事例を理解し、携わる方々の想いに触れることで、まちをあかるくする当事者としてより身近に社会の課題に対して目を向けられる土壌を育ててまいりましょう。

SDGs に示される通り社会課題の種類は多岐に渡り、また地域特有の課題も常に私たちの身の回りに多く存在しているはずです。課題解決のさらにその先、明るい豊かな社会を目指すべく、国や行政に対しても率先して未来を描き行動する青年経済人であり続けましょう。

③ネットワークとしての JC 運動

実行組織としての青年会議所が培ってきた強固なツリー型組織は、内部メンバーを巻き込み、強力な意思決定のもと迅速かつ正確に事業を遂行する際に大きな力を発揮します。

反面、複雑化した社会を捉え、問題の本質を明らかにし、運動を起こしていくためには、私たちだけでは見えるものも見えず、届けるべき声も届かない恐れがあります。真に明るい豊かな社会を持続的に追い求める仕組みを実現するためには性別や年齢、所属を超えた相互理解とコミュニティの形成が必要となります。巻き込むべきステークホルダーとその主体的仲介者としての青年会議所という関係を深めるべくさらに一歩踏み込み、それぞれの層が持つ価値観や課題意識を理解し、交流や行動を通して互いが共感し合うことで、これまで見えなかった市民や聞こえなかった声、知らなかったまちの姿が浮かび上がるはずです。

ローカルをより良くするのは行政と地元民間の連携が重要だと言われていますが、それはかつてのようなトップダウンの意志決定や陳情ではなく、複雑かつ多様化し、正解のない未来像に対して常に問いかけ続ける、様々な立場を超えてまちの温度を上げていくコミュニティが求められていると考えています。全国の悩める地方都市で現在様々なコミュニティ形成のための取り組みがなされていますが、既存団体や行政の社会実験、新たなテクノロジーの実装など様々な可能性を視野に入れた持続可能なコミュニティ発展の姿を模索してまいりましょう。

かつてノブレスオブリージュ(高貴さに伴う社会的義務)の文脈で捉えられることの多かった JC 運動ですが、組織に所属することそのものは私たちの高貴さを保証するものではありません。よりよい社会を目指すために出来得ることを尽くして初めて、私たちはまちに求められる組織で居続けられるのです。より市民に根差した JC 運動を展開するためのネットワーク構築を進めてまいりましょう。

④まちをあかるくする Jaycee として

新たな友人を求める人、ビジネスに役立つ知識を求める人、あるいは地域に貢献するためのボランティア活動の場を求める人。毎年、様々な思いを持った新たな仲間が青年会議所の門を叩きます。彼らメンバーに逆境や困難に立ち向かい自己と向き合う経験、仲間との出会いと協働を通じて得られる大きな達成感の喜びといった成長と発展の機会を与えるのが青年会議所の果たす大きな使命となります。

それと同時に、様々な団体や組織があり、それぞれに成長や出会いの機会がある現在、組織として本当に地域を良くしていくための実践的行動の機会を与えてくれる、唯一無二の団体としての存在感を高めていかなければ、我々の活動を差別化出来ないことも事実です。LOM 全体がタッグを組んで、新たな仲間を迎え入れると同時に、私たち一人ひとりにとってまちをアツクするための最高の経験が出来る場としての価値を高めていく必要があります。

そしてまちを見つめる視野を広く持つためにも、多様な価値観と背景を持つ仲間を多く迎え入れることは重要です。組織のダイバーシティを高めることで、社会環境や価値観の変化に柔軟に対応出来る組織へと進化出来るのです。

まちをより良くし続けるために拡大運動を大いに盛り上げ、新たな仲間との交流と育成を通じて組織の底力を高めてまいりましょう。

⑤言行一致のメンバーとして

福山青年会議所から入会の声が掛かりはじめた頃の、未だに忘れられない出来事があります。私の経営する会社は繁華街の入り口にあるのですが、ある日の夜、当社の駐車場に突然知らない車たちが列を成して無断駐車していたのです。中から出てきた黒いスーツの集団が一斉に繁華街へと向かおうとしているのを確認し、思わず声を掛けましたが、彼らは「面倒だな・・・」という表情を隠しもせず、幹事と思しき若手に私の対応を任せて、こちらが根負けするのをその場で待っていたのです。それを見た、一般市民である私の抱いた感情と、青年会議所への印象については語るまでもないでしょう。どんなに良い事業を行っても、パートナー団体や行政に感謝されても、全て台無しにしてしまうのです。

私たちが明るい豊かな社会の実現を目指す団体として、まちに愛されるようになるためには、私たちメンバーの意識と行動をブラッシュアップする必要があります。誰もが画一的な価値観を持った組織を目指すべきではありませんし、過度に品行方正である必要もありませんが、私たち一人ひとりの普段の行いが市民や未来のメンバーに与える影響は大きいと自覚するべきでしょう。裏を返せば、私たちの普段の行いがまちと住み暮らす市民への愛と感謝、敬意に溢れたものであれば、それは確実に私たちの運動への共感と支援の輪を拡げる一助となるはずで、言行一致出来る青年経済人を目指していきましょう。

また同時に、まちを様々な視点で俯瞰し、まちの未来を自分事として捉える当事者意識を持つためにも、様々な知識や価値観に触れることは重要です。身の回りの情報だけではどうしても視野が狭まってしまいます。私たち世代の青年経済人としてのさらなる成長を目指した学びの機会を広く積極的に提供することで、私たちの学びに貪欲な姿勢を内外に示してまいりましょう。そして同時に、私たちは既に無償奉仕の気持ちを持って、自分の意志でこの組織に属している素晴らしいメンバーであることは紛れもない事実です。会員が気持ちよく、ポジティブな気持ちで日々の活動に邁進するためにも、卒業以降も大きな財産となる強い絆を生み出すためにも、そして互いをより深く知ることが新たな出会いと学びと気付きの機会となるためにも、メンバー同士の誰も取り残さない理解と交流の機会を提供してまいりましょう。

⑥共感を生むための戦略として

広報の目的が、対象者の共感を得て次の行動に移すためのキッカケを与えるものだとすれば、それは情報発信により活動を『理解』してもらおうこと、考えを伝え『納得』して

もらうこと、そして想いを伝え『共感』してもらうステップを踏むこととなります。私たちの運動を発信し、何故それを行っているのか考えを伝えること、そして取り組むメンバーの持つストーリーや想いを届けること、ここまで行えて初めて情報発信は周りを動かすだけの力を持つことが出来るのです。誰もが気軽に情報を発信し、かつ様々なメディアを通じて大量の情報が飛び交う現代において、情報がある程度タイムリーであることは当たり前になりつつあります。しかし情報に込められた熱い想いや物語は、長く人の心に残る宝物となり得ます。広く市民へ周知し、将来メンバーとなり得る層へアプローチを行い、そして同時に組織の一体感を高めるための理想的な広報戦略の形を構築し、広く共感の輪を拡げてまいりましょう。

また、私たちが真に明るい豊かな社会を目指すためにも、青年会議所ネットワークを存分に生かせる環境は重要です。世界最大規模の青年団体としての青年会議所の価値を活かすためにも、JCI 福山メンバーの出向による運営への貢献を通して、多くの情報と経験、そして世界中の仲間を得ることは組織としても大切なことです。多くのメンバーが全国の出向先で大いに活躍していただけるよう LOM として支援をおこない、その学びとネットワークをメンバー全体の資産としてまいりましょう。近年のコロナ対策により WEB が活用される機会も多くなりました。熱の入った交流が難しい反面、メリットも多くあります。今後も活用が想定されるリモート環境の中での出向者支援の形についても模索してまいりましょう。

⑦風格ある JCI 福山として

青年会議所が他団体から一目置かれる理由の一つとして、その厳粛な組織運営が挙げられます。一つひとつの例会や諸会議を大切にすることが、あらゆる困難に立ち向かうことの出来る組織風土を培ってきたのです。

向かうべき方向性を確認し、そして皆で新たな学びを共有し運動の糧とする月に一度の例会。議論を通じて互いを理解し英知を結集させる諸会議。どれも歴史ある青年会議所の根幹であると同時に、組織としての性格を強く決定付けるものとなります。異なる価値観を持つ者同士が、その特性を活かしクリエイティビティを発揮し、まだ見ぬより良い社会を創るための運動を起こしていく組織として、これらの例会や諸会議についてもまた、運動を最大化するための新たな運営手法やツールの活用にも果敢に取り組む必要があります。一つひとつの時間にどのような意味を持たせ、より良いものに出来るか追及してまいりましょう。

⑧まちの価値と可能性を伝える機会として

2022年8月28日、福山城は築城400年を迎えます。私たち JCI 福山はメンバーの並々ならぬ努力により、第41回全国城下町シンポジウムを開催する権利を勝ち取りました。全国の城下町を有する LOM が一同に会するこのシンポジウムは、城下町の歴史と価値を確認すると同時に、全国の地方都市がこれからどのような戦略と意志を持って生き残りを図っていくのか、そしてそれに対する福山のアンサーを届ける絶好の機会となるはずです。現在福山市は、駅周辺市街地について全国でも類を見ないスピードでのエリア価値再興を果たしているまちとして、専門家から大変注目されています。城下町としての歴史と伝統の持つ価値、そしていま起きているまちの変化とその可能性を広く内外に共有し、さらなるチャンスにつなげるためにも、この機会を存分に活用してまいりましょう。

⑨おわりに

私たちがこれから直面するのは、戦後日本の神話に基づく常識が通用しなくなった時代です。バブル期にピークを迎えた日本の国際競争力は下落を続け、金融緩和や円安誘導で数字の帳尻を合わせながら、戦後モノづくり大国であった時代に築き上げた資産で食い繋ぐ状態の延長線で私たちは育ってきました。拡大する市場と増え続ける人口に裏打ちされた“みんなと同じように頑張れば報われる社会”の成功体験が組織や教育現場のカルチャーを縛り、反面その恩恵に今後も預かれる保証は何処にもありません。

そんな私たちが子供たちの世代により良い社会を残すためには、人間の可能性を引き出すための“攻めの多様性”が必要なのだらうと考えています。本来多様性とは“受け入れる”ものではなく相互理解を通じて社会の強みとして“獲得”するものなのです。

それは決して生温いものではなく、これまで阿吽の呼吸でやってきた同質性の高い組織の心地良さから抜け出し、価値観の違いから来る誤解や衝突の荒波に敢えて飛び込む激しさが求められるのかもしれない。目的達成のためには今まで以上の汗をかく局面もあるかもしれない。効率よりもインクルージョン(包括、全ての人の参画を促すこと)を優先した仕組みづくりを求めることになるでしょう。

しかしこれは今までの青年会議所の目指す運営そのものではないでしょうか。全てのメンバーの参画を促し、外にその共感の輪を拡げ、多くの市民の協力のもと行動する、まさにJC 運動とは本来多様性を必要とするものであるはずです。そしてこれを正しく追求することは、これまで見えなかった価値、交わらなかつたはずの出会いを私たちにもたらしてくれると私は信じています。

まちを、あかるくするために。未来をもっとより良いものにするために。

□いアタマを○くして、面白い1年を創っていきませんか。